



上下水道局

令和5年度 重点目標

- 1 持続可能な事業運営の推進
- 2 きれいで安全な水を供給する上水道事業の推進
- 3 上水道施設の計画的な維持・更新
- 4 下水道施設の計画的な維持・更新
- 5 危機管理体制の充実




令和5年度 重点目標管理シート

重点目標	持続可能な事業運営の推進		部局名	上下水道局	優先順位	1位
総合計画における位置付け	第2編 安全・安心な快適環境のまちづくり 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第5節 安定した経営による上水道・下水道事業の継続		上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」 における位置付け	4 日本を代表する循環型社会をつくる		
第四次上田市行政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け		(2) 健全で持続可能な財政基盤への改革 イ 健全な財政基盤の構築				
現況・課題	<ul style="list-style-type: none"> 給水人口の減少や節水意識の高まり等により料金収入が減少する一方で、上下水道施設の更新や耐震化費用の増加が見込まれることから、上下水道事業を取り巻く経営環境は厳しさを増しています。こうした状況に対応するため、平成31年3月に策定した「水道ビジョン」、「下水道ビジョン」及び令和2年2月に改定した上下水道事業経営戦略を踏まえ、定期的に事業を見直ししながら、健全な経営を進めていく必要があります。 熟練技術者の退職や異動により、技術力の確保と継承が難しくなっています。また、上下水道に係る専門知識に加え、公営企業職員として企業会計に対する知識の習得も求められます。 給水区域が隣接する県企業局・長野市・上田市・千曲市・坂城町の5事業体で構成する水道事業広域化研究会に参加し、広域連携の研究を進めてきましたが、上田市としての方針を決定し、広く市民に周知する必要があります。 上下水道料金の収納等に関する業務は民間業者に包括委託していますが、引き続き収納率の向上に努める必要があります。 					
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ビジョンや経営戦略に沿って事業を推進することで、財源とバランスのとれた投資を行うことが可能になります。 これまで以上に外部研修受講や資格取得の奨励を促進し、次の世代につなげる人材育成を図ります。 水道事業広域化研究会に参加し、広域連携の研究を進め、経営の合理化について検討します。 		該当するSDGsの目標	 		
取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）及び（中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）		
① 水道事業広域化の検討 (1) 広域連携に関する調整会議への参加 (2) 水道広域化に向けた庁内検討 (3) 住民説明会等の開催	(1)～(3) 4月～3月	(1) 研究会・幹事会への参加 (2) 広域化の方向性の確認 (3) 市民への周知	(1) 幹事会11回参加 (2) 水道広域化検討委員会の開催・協議(6/1) (3) 市民説明会9回開催(8/1～9/24・延べ155人参加) 市民アンケート実施(10月)に向けた準備			
② 経営戦略改定・料金算定 (1) 水道及び下水道に係る経営戦略の改定準備 (2) 水道及び下水道に係る料金算定	(1)(2) 4月～3月	(1) 経営戦略の改定(～令和6年度) (2) 料金算定(～令和6年度)	(1)(2) 経営戦略・料金改定計画策定等業務委託契約締結 R6年度の改定に向け作業中			
③ 人材の育成 継続的な外部研修の受講促進や資格取得の奨励による人材育成の実施	4月～3月	外部研修・資格取得研修受講 ・事務系講習会 延べ10人 ・上下水道技術関係 延べ25人 ・作業資格取得講習会 延べ6人	外部研修・資格取得研修受講(9月末現在) ・事務系講習会 延べ4人 ・上下水道技術関係 延べ6人 ・作業資格取得講習会 延べ5人			
④ 広報活動の充実 (1) 上田市水道創設100周年記念式典の計画、開催 (2) 啓発活動の実施	(1) 7月 (2) 随時	(1) 記念式典・記念講演の開催 (2) 広報うえた記事掲載、環境フェア出展等	(1) 上田市水道100周年記念式典・記念講演の開催(7/7・来場者157人) (2) 広報うえた啓発記事掲載2回(5月特集・7月) 水道100周年記念展示の実施(4/13～8/25) 南部終末処理場見学会(下水道の日)の開催(9/10)			
⑤ 収納率の向上 水道料金・下水道使用料(現年度分)	4月～3月	収納率 水道 99.41%以上 下水道 99.42%以上	収納率 水道 98.96%(9月末現在、前年同期99.00%) 下水道 98.83%(9月末現在、前年同期98.97%)			
⑥ 水洗化の促進 公共下水道地域、農業集落排水事業地域の戸別訪問等による水洗化促進の実施	4月～3月	新規接続戸数 750戸	新規接続戸数 439戸 (9月末現在、目標達成率58.5%、前年同期420戸) 参考 4月(65戸)、5月(108戸)、6月(76戸) 7月(37戸)、8月(66戸)、9月(87戸)			
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点		○取組による効果・残された課題			




令和5年度 重点目標管理シート

重点目標	きれいで安全な水を供給する上水道事業の推進		部局名	上下水道局	優先順位	2位
総合計画における位置付け	第2編 安全・安心な快適環境のまちづくり 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第5節 安定した経営による上水道・下水道事業の継続		上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」における位置付け		4 日本を代表する循環型社会をつくる	
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	(2) 健全で持続可能な財政基盤への改革 イ 健全な財政基盤の構築					
現況・課題	・上水道の水源は、河川の表流水、ダム水、地下水、湧水など28箇所あります。このうち、湧水水源の一部には、降雨時における濁質やクリプト汚染等による影響により、水質が不安定になることから、この対策が急務となっています。このような湧水水源に対しては、この上流域で水質が安定し水量が豊富な湧水水源による給水に切り替えを進めているところですが、これらの水源の有効活用により維持管理の軽減が求められています。					
目的・効果	・安定した湧水の活用を行うことにより、気象の影響を受けやすい湧水水源の代替や、配水系統間の相互融通や水運用の改善が図られ、より良質で経済的な水の供給が可能となります。 ・安全安心な水道を将来に渡って維持し、持続的な水道水の供給を確保するため、水質管理体制の強化を図ります。		該当するSDGsの目標	  		
取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）及び（中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
① ○水源の安全性向上 (1) 水源の確保 (2) 水源の水質検査強化	4月～3月	(1) 水源整備 3箇所 長入井戸揚水ポンプ、場内整備 唐沢湧水ろ過装置 認可変更（長入、余里、唐沢） (2) クリプトスポリジウム検査 14箇所 29検体 指標菌検査 24箇所 120検体	(1) 水源整備3箇所 長入水源ポンプ 発注済 唐沢湧水ろ過装置 発注済 認可変更 協議中 (2) クリプトスポリジウム検査 9箇所 13検体 指標菌検査 24箇所 58検体 *つちや水源給水区域拡大に伴い不要となった検査数減少			
② ○水質監視体制の強化 (1) 水質検査機器更新 (2) 水質計器更新	4月～3月	(1) 高圧減菌機 1台、乾熱減菌機 1台 ウォーターバス 1台、恒温水槽 1台 (2) 残留塩素計 2台（染屋・石舟） 原水濁度計 3台（石舟・泉町・余里） 油分計 2台（新屋・腰越）	(1) 高圧減菌機 更新完了、乾熱減菌機(後期発注予定) ウォーターバス 発注済、恒温水槽(後期発注予定) (2) 残留塩素計2台 設計中(後期発注予定) 原水濁度計3台 設計中(後期発注予定) 新屋油分計 発注済 腰越油分計 次年度へ計画変更 原水濁水時等に原水に異臭が発生、腰越浄水場に活性炭注入設備を設置し早急に対策を取るため			
③ ○地下水源の運用拡大整備事業の推進 滝の入水源を活用した新たな導・配水施設の整備	4月～3月	滝の入水源整備における各種団体との協議調整、工事発注	滝の入水源整備における各種団体との協議調整（環境省1回）			
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点		○取組による効果・残された課題			



令和5年度 重点目標管理シート

重点目標	上水道施設の計画的な維持・更新		部局名	上下水道局	優先順位	3位
総合計画における位置付け	第2編 安全・安心な快適環境のまちづくり 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第5節 安定した経営による上水道・下水道事業の継続		上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」 における位置付け	4 日本を代表する循環型社会をつくる		
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	(2) 健全で持続可能な財政基盤への改革 イ 健全な財政基盤の構築					
現況・課題	・上水道の施設及び管路は老朽化が進行し、特に1980年から2000年の敷設ピーク時の管路が今後、更新時期を迎えることになるため、法定耐用年数（40年）を経過した老朽管が年々増加していきます。また、耐震化率が低い水準にあることから、大規模地震が発生した場合、水道水を供給する機能が多くの損なわれる可能性があることから、老朽施設の更新や耐震化を早急に進めて行く必要があります。					
目的・効果	・老朽化した水道施設や管路の更新及び耐震化は、市民生活に欠くことのできないライフラインである上水道の強靱化を進めるために必要不可欠な事業であり、施設の更新に当たっては、アセットマネジメントによる更新需要と中長期的な財政推計を踏まえながら、計画的に進めてまいります。また、上水道管路の計画的更新や耐震化は、日常の管破裂や漏水などの減少につながることから、有収率の向上が期待できます。		該当するSDGsの目標			
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）及び（中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
①	○上水道基幹管路の耐震化及び経年管の更新、有収率の向上	4月～3月	更新延長 L=1.8km 有収率 85%	更新延長 L=1.31km （上田・真田 L=1.28km、丸子・武石 L=0.03km） 有収率 87.89%（9月末現在、前年同期84.55%）		
②	○計画的な水道施設整備の推進 (1)更新 (2)耐震補強工事（実施設計）の推進 緊急遮断弁設置	4月～3月	(1)浄水場内管路 1箇所 (2)詳細設計 2箇所 緊急遮断弁 1箇所	(1)染屋浄水場内管路(第1～3配水池流入管路) 施工中 (2)真田沈砂池耐震設計 発注済 腰越浄水場更新基本計画業務委託 入札手続中 * 腰越配水池が耐震不適のため浄水場更新計画に変更 神科配水池緊急遮断弁 発注済		
③	○ポンプ設備等の更新 ポンプ及び自家発電機	4月～3月	上田地域 4箇所 丸子地域 3箇所	上田地域 泉町ポンプ施設更新 施工中 神科ポンプ制御盤更新 設計中 上室賀送水ポンプ更新 設計中 上室賀第2送水ポンプ更新 設計中 丸子地域 池の芝第2ポンプ場ポンプ更新 発注済 霊泉寺送水ポンプ更新 発注済 箱置送水ポンプ場非常用発電機 次年度へ計画変更 * 水質対策で腰越浄水場に活性炭注入設備を設置するため		
④	○浄水場等設備更新 浄水機器更新	4月～3月	制御システム及び設備更新 上田地域 1箇所 丸子地域 1箇所	上田地域 染屋PAC攪拌機更新 設計中 丸子地域 腰越浄水場後次亜注入装置 発注済		
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題		

令和5年度 重点目標管理シート

重点目標	下水道施設の計画的な維持・更新		部局名	上下水道局	優先順位	4位
総合計画における位置付け	第2編 安全・安心な快適環境のまちづくり 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第5節 安定した経営による上水道・下水道事業の継続		上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」 における位置付け	4 日本を代表する循環型社会をつくる		
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	(2) 健全で持続可能な財政基盤への改革 イ 健全な財政基盤の構築					
現況・課題	<ul style="list-style-type: none"> 下水道が建設から維持管理の時代に移行していく中、施設の老朽化が課題となっており、老朽化が進む施設の計画的な更新を図るため、下水道施設長寿命化計画及び後継計画であるストックマネジメント計画を策定し事業を実施しています。今後は、安定した下水処理を維持するため、長期的な計画に基づいた施設の更新を実施していく必要があります。 人口の減少や少子高齢化の進展、省エネルギー化など、社会情勢の変化に伴い、市民のライフスタイルも大きく変わる中、下水道事業も建設から維持管理へと大きく役割が変わってきており、維持管理の効率化を図る必要があります。 下水道施設の維持管理の効率化を更に図る上で、公共下水道施設への接続が有利と思われる農業集落排水施設については、公共下水道との統合についても検討が必要です。 					
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> 安定した下水処理を確保するため、下水道施設長寿命化計画及びストックマネジメント計画による施設の更新を図ります。 社会情勢の変化に対応した効率的な施設の維持管理を図るため、農業集落排水施設と公共下水道施設の統合計画を進めます。 		該当するSDGsの目標	  		
取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
① ○し尿前処理下水道投入施設の建設 (1) 建築・土木工事（R5-R7債務負担）	4月～3月	(1) 建築・土木工事の実施	(1) 5月 日本下水道事業団と協定締結 7月 公告開始 ⇒ 8月 入札不調(1回目) 9月 公告開始 ⇒ 参加申込がないため中止(2回目) 3回目の公告に向け準備中			
② ○長寿命化事業・ストックマネジメント事業及び耐震化事業の実施 (1) 南部終末処理場ほか3箇所 設備更新工事（R5-R6債務負担） (2) 真田浄化センター耐震化工事 (3) 上塩尻ポンプ場、神川東ポンプ場 圧送管二条化工事 (4) 鉄蓋更新工事	4月～3月	(1) 設備更新工事の実施 (2) 耐震化工事の実施 (3) 圧送管二条化工事の実施 (4) 鉄蓋更新工事 西内工区 N=40枚 管渠更生工事 下長瀬地区 L=40.68m、西内工区 L=140m 管口耐震化工事 西内工区 N=8箇所	(1) 日本下水道事業団と協定締結(5月) (2) 日本下水道事業団と協定締結(5月) (3) 神川東ポンプ場圧送管 工事発注(9月) * 上塩尻ポンプ場圧送管 計画見送り (4) 鉄蓋更新工事 西内工区 N=42枚 工事発注(9月) * 管渠更生工事 下長瀬地区 設計中 * 管渠更生、管口耐震工事 西内工区 入札中			
③ ○農業集落排水施設統合事業の推進 (1) 豊殿南部地区⇒林之郷地区 (2) 山田地区⇒八木沢地区	4月～3月	(1) 財産処分申請の提出 (2) 地元協議の実施	(1) 7月申請提出 ⇒ 8月承認 (2) 4月 地元協議の実施 7月 地元説明会開催 ⇒ 8月 統合承諾			
④ ○農業集落排水施設の機能強化事業の実施 (1) 富士山処理場の機能強化工事（R5-R6債務負担）	4月～3月	(1) 機能強化工事の実施	(1) 10月入札予定			
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点		○取組による効果・残された課題			

令和5年度 重点目標管理シート

重点目標	危機管理体制の充実		部局名	上下水道局	優先順位	5位
総合計画における位置付け	第2編 安全・安心な快適環境のまちづくり 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第5節 安定した経営による上水道・下水道事業の継続		上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」 における位置付け		4 日本を代表する循環型社会をつくる	
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	(2) 健全で持続可能な財政基盤への改革 イ 健全な財政基盤の構築					
現況・課題	・上下水道建設から維持に携わってきた熟練技術者の退職や職員異動等により、災害時に迅速に対応できる技術の確保が課題となっています。大規模災害などに備え、災害時の応急給水活動体制など、ソフト面での対応が必要です。					
目的・効果	・施設の更新や耐震化は限られた財源の中で進めて行くことから長い期間を要します。しかし、自然災害はいつ発生するかわからず、施設の耐震化が不完全なうちに起ることも想定されます。そのため、災害が発生した際の復旧体制や応急対策を整えておくことは、迅速な災害復旧対応に繋がります。		該当するSDGsの目標	 		
取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
① ○防災訓練の実施 防災訓練の実施による危機管理対応能力の向上	4月～3月	応急給水訓練 2回 緊急連絡管操作訓練（県営水道、東御市、長和町）各1回 灯油等流入事故対応訓練 1回 他水道事業者との合同訓練 1回	応急給水訓練 後期に実施予定 緊急連絡管操作訓練 後期に実施予定 （東御市とは緊急連絡管接続工事完成後） 灯油等流入事故対応訓練 後期に実施予定 他水道事業者との合同訓練 後期に実施予定			
② ○災害時等、緊急時の体制整備	4月～3月	危機管理マニュアルの見直し 東御市との緊急連絡管接続工事 L=180m（郷土川原）	危機管理マニュアル整備中 東御市との緊急連絡管接続工事 L=173m（郷土川原） 施工中			
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点		○取組による効果・残された課題			